

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

長崎県西海市

○学校名

西海市立西彼中学校

○学校のURL

<http://www1.ocn.ne.jp/~seihichu/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】1年生4学級、2・3年生各3学級 【特別支援学級】1学級
【合計】11学級

○児童生徒数

【全生徒数】286人（平成24年11月20日現在）
（内訳：1年生110人、2年生92人、3年生84人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

自ら学び、考え（自主）、健康や体力を育み、個人と集団生活の向上に努める（創造）とともに、他を思いやる心豊かな（敬愛）生徒を育成する

【人権教育に関する目標】

人間尊重の精神を基本として、心豊かな人間性を身に付け、互いを認め合うことのできる生徒の育成

○人権教育にかかる取組の全体概要

H24年度

文部科学省委託「人権教育総合推進地域事業」指定地域〔西彼中学校区〕

H24年度～25年度

西海市教育委員会「人権教育」研究指定校〔西彼中学校〕

【研究主題】

「温もり」のある学校づくりと「確かな学力」を身に付けた生徒の育成
～人権教育の推進を通して～

1. 「温もり」のある学校づくりについて

地域の協力を得ながら、自他を大切にする心、偏見やいじめを許さない態度を育てることで、皆が、笑顔で安心して生活できる「温もり」のある学校づくりを推進していく。

2. 「確かな学力」を身に付けた生徒の育成について

自尊感情を高め、夢や志に向かって将来を切り拓く学力を保障する面からも、郷土の明日を担う人材を育てるという面からも、授業改善を柱としながら「確かな学力」を身に付けさせていく。

3. 特色ある実践事例の内容

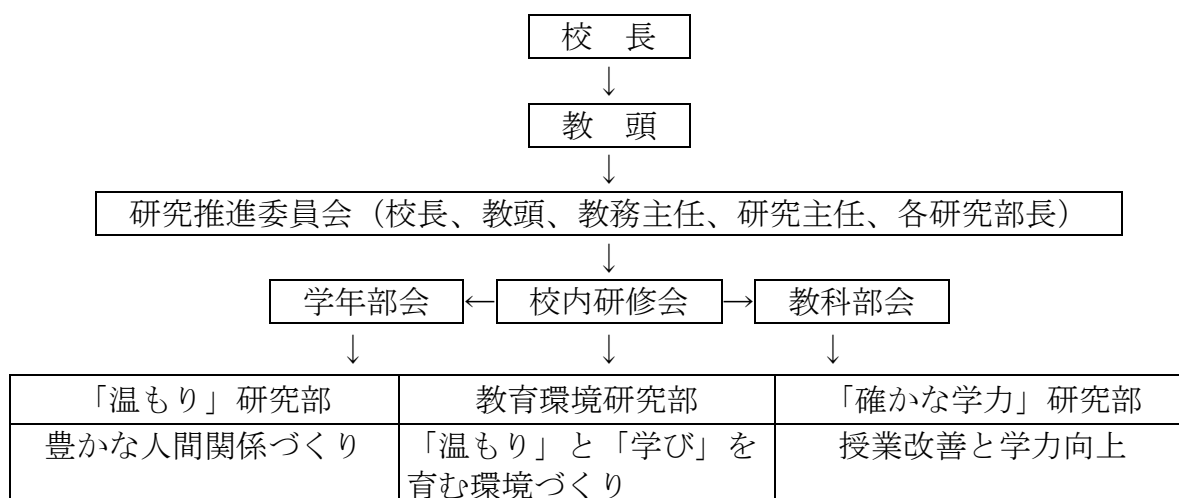
■研究の概要

本校の生徒は明るく素直で、学校行事や部活動などに活発に活動できる生徒が多いが、その一方で、人間関係づくりが苦手で、意識しないうちに他人が嫌がる言動をとってしまう生徒も見られる。そこで、地域の協力を得ながら、自他を大切にする心、偏見やいじめを許さない態度を育てることで、皆が、笑顔で安心して生活できる「温もり」のある学校づくりを推進していきたい。

学習面では、本校の生徒の授業態度は、まじめで落ち着いており、全国学力・学習状況調査等の結果からも、やればできる力をもった生徒たちであることがわかる。しかしながら、将来の夢や希望をもてずにいる生徒も少なからず存在し、学ぶ意義への自覚が高まらず、進んで意見を述べるなどの積極性が乏しく、家庭学習の習慣が十分に身に付いていない生徒も多い。こうした中、授業改善を柱としながら生徒一人ひとりがもつ力を最大限に引き出して「確かな学力」を身に付けさせていくことが、自尊感情を高め、夢や志に向かって将来を切り拓く学力を保障する面からも、また、郷土の明日を担う人材を育てるという面からも、本校が取り組むべき喫緊の課題である。

■研究内容と校内研究組織

研究を推進していくために、「温もり」研究部、教育環境研究部、「確かな学力」研究部の3つの研究部会を設け、以下のように研究組織を設定した。



■具体的な取組内容

「温もり」研究部

◇人権学習の充実

- 同和問題、障害のある人の人権等、重要課題に関する「学び」の充実
朝読書の時間や掲示教育による学び、講演会や講話の実施
- 命を見つめる教育の充実
 - ・「長崎（西彼）っ子の心を見つめる教育週間」の実施（命を見つめる道德授業等の地域住民・保護者への一斉公開）
 - ・思春期教室（1，3年）
（男女交際や妊娠・出産に関する、妊婦体験等を盛り込んだ講演会）
 - ・講演会「自分の命と向き合うために」（自死遺族支援ネットワーク R e 代表 山口和浩氏）

○人権集会

人権に関する映画鑑賞、学年の取組の紹介、西彼中学校人権宣言の発表

○人権に関する作品応募

西海市、人権啓発作品コンクール ～「美しい日本語」推進事業～
長崎県 P T A 連合会公募の標語づくり

○ P T A 研修会における人権に関する講演会の実施

◇平和学習の充実

- 長崎市被爆遺構めぐりの実施（1年）
- 平和学習講演会「長崎と世界をつなぐ」（西岡由香氏）
- 8・9 平和集会

長崎原爆に関する映画鑑賞、西彼中学校平和宣言の発表

◇ソーシャルスキルトレーニングの導入～学年別に課題を明確にして取り組む～

- 1年：安心できる集団づくり
- 2年：真の友情について考え、認め合える集団づくり
- 3年：支え合える集団づくり

◇生徒会活動の活性化 ～自治意識の向上～

- 「長崎っ子さわやか運動」の推進 ～子どもサミット参加～
- 「気づこう週間」の取組
- 「クラス一丸活動」

クラス単位で、学校生活や学級生活を向上させる特色ある活動に取り組む。
～積極的なあいさつ、掃除を頑張る、話す態度と聞く態度を伸ばす等～

- 「あいさつ運動」の充実 ～月ごとにあいさつの目標を設定して実施～
- 「校歌ウィーク」の実施

誇りをもって歌うことができるよう朝の会で全校練習を実施し、成果をあげた学級を紹介

- 「エコキャップ推進運動」の実施（西海市社会福祉協議会と連携）
- 人権標語づくりの呼びかけと校内掲示

- ◇キャリア教育（夢や志に向けて努力する「思い」と「力」を育てる）の推進
 - 1年生：職業講話、2年生：職場体験学習、3年生：進路講話
- ◇特別支援教育の充実
 - 特別支援委員会を位置づけ、毎週実施
- ◇道徳教育の充実
 - 授業改善を目指し、学年の枠を越えて、内容項目別に資料を整理
- ◇思いを表す（表現）活動の充実、縦割り活動を取り入れた学校行事の工夫
 - 体育祭の応援合戦、合唱コンクールの練習における学年間の交流

教育環境研究部

- ◇掲示教育・放送教育の充実
 - 校内掲示板に「温もり」コーナー、「確かな学力」コーナーを設置・活用
 - 各教科作品による校内掲示の充実
- ◇広報・啓発
 - 学校便り、学級通信、ホームページ等による広報・啓発
- ◇諸調査・分析
 - 学校生活に関するアンケートを実施し、その結果を「温もり」研究部で活用
- ◇教育環境の整備
 - ICT環境の整備、職員室内イントラネットの導入

「確かな学力」研究部

- ◇学力向上を実現する授業づくり
 - 学力分析と課題把握のため、「学力弱点分析テスト」実施、授業改善に活用
 - 「美しい日本語」を意識した言語活動の充実（聞く力・伝える力の育成）
 - しっかりと「教え」じっくりと「考えさせる」授業づくり
 - 本時の目標の明示と授業終末及び単元末の充実
 - きめ細かな学習指導（TT・ALT・支援員の活用）
 - 学習規律の徹底
 - 1人1回の研究授業実施とビデオを用いた授業研究の充実
- ◇人権教育の視点を踏まえた授業づくり
 - 人権教育の視点を踏まえた指導案形式と、授業参観視点表を作成・活用

4. 実践事例の実績、実施による効果

研究は緒についたばかりであり、具体的数値等で確かな成果を示すまでには至っていない。

生徒会活動で取り組んでいるあいさつ運動では、「相手の目を見て」、「いつでも立ち止まって礼」など、月ごとの目標を設定して呼びかける中で、校内でのあいさつの声が増え、「立ち止まって礼」の習慣が教師、生徒の間で定着しつつある。また、「気づこう週間」への取組では、生徒が気付いた改善点を公表し、掲示することで、生活向上への意識が高まり、トイレのスリッパもきれいに並びつつある。

校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、各学年担当、特別支援学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー、特別支援教育補助員、心の教室相談員からなる「特別支援委員会」を時間割の中に位置づけ、毎週実施することにより、授業支援や、カウンセリング、通級指導教室設置に向けた取組など、支援を必要とする生徒へのきめ細やかな対応ができており、スクールカウンセラーによる計画的なカウンセリングの回数も飛躍的に増加し、生徒の変容にも結びついている。

各種学力調査の結果や、「確かな学力」研究部が実施した「学力弱点分析テスト」の結果からは、本校生徒の学力面での課題が、書く力・表現力（コミュニケーション力）にあることが明らかになり、教科ごとの授業改善に生かすことができた。今後、年度内に再び分析テストを実施し、生徒の変容を確かめたい。また、1人1回の研究授業の実施については、人権教育の視点を盛り込んだ指導案を作成し、研究授業と研究協議を重ねることができた。しかし、授業を参観できる教師が限られており、研究協議の時間確保も難しい状況である。こうした中、夏季休業中に、ビデオを活用した全体での研究協議を実施し、その後の授業改善に生かすことができた。

また、本校の取組を、保護者や地域住民の方々にも理解いただき、「体育祭」、「西彼祭」等大きな学校行事には、きわめて多くの保護者や、地域の方々に参観いただいた。また花壇の整備、植木の剪定、池の補修など、教育環境の整備にも協力いただいている。

5. 実践事例についての評価

研究の初年度にあたり、試行錯誤を繰り返しながら研究を進めているところであるが、本年度の研究に関しては、以下のように評価することができる。

1 「温もり」のある学校づくりについて

学校行事の充実、講話や講演会の実施、生徒会活動の活性化、特別支援教育の充実などの取組を通じて、生徒の表情に活気が宿り、明るくさわやかなあいさつが飛び交う学校となりつつある。学校評価に関するアンケート結果を見ても、生徒、保護者ともに、学校生活に対する満足度が極めて高い数値を示している。

しかしながらその一方で、深く考えることなく平気で他人の嫌がる言動をとる生徒も未だに見られ、優しい思いを言葉や行動に表す力や温かな人間関係を築く力が十分身に付いていない。

今後、一つ一つの実践における「育てたい力」を明確にし、相互の関連や効果的な位置付けに配慮しながら実施していく必要がある。

また、人権教育の基盤をなす各人権課題に対する「学び」の場面が不足していることが大きな課題である。そのため、本校の実践が、ともすれば単なる「思いやり」論に陥ってしまい、真に生徒の心を揺さぶるものになっていないのではないかという点も指摘できる。

2 「確かな学力」を身に付けた生徒の育成について

各種学力調査や学校独自の弱点分析テストの結果を踏まえながら、研究授業を重ね、教科の壁を越えた授業研究を行っていく中で、一步一步授業改善が図られ、生徒の学習態度にも向上が見られる。

しかしながら、未だに「進んで授業に参加できない生徒」や「家庭学習習慣が身に付いていない生徒」がいることも事実である。また、学習内容の理解や定着に大きな課題を抱えている生徒も見られる。

今後、個に応じたきめ細かな指導の充実にも研究の視点を向け、教科を越えて取り組んでいくことにより、一層の「学力向上」を実現していく必要がある。

3 保護者・地域との連携について

地域指定を受け研究を進めていくにあたり、人権や命に関して、親子が共に学び考えを深める場面づくりに努めるなど、まずは、PTAとの連携をさらに深めていく方策を探っていく必要がある。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

西海市立西彼中学校

生徒の実態から課題を明らかにし、その解決に向けて目標を明確に設定して、保護者や地域の理解と協力を得ながら人権尊重の理念に基づく具体的な教育活動を実施して効果を発揮している事例である。

「温もり」のある学校づくりでは、生徒会活動を活性化しているところに特色がある。生徒自身の自治意識を高揚させ、「温もり」のある学校づくりに生徒自らも関与させている。生徒の表情に活気が宿ってきたことや学校評価の結果において生徒、保護者共に学校生活に対する満足度が極めて高い数値であったことなどは成果の現れである。

また、「確かな学力」を身に付けさせることにおいては、自尊感情を高め、夢や志に向かって将来を切り拓く学力を保障する観点から、教科の壁を越えて授業研究を重ねることにより授業改善が図られ、生徒の学習態度の向上につながっている。